

## 投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 港湾課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	港湾課 澄田 泰造 (橋丘 真)	内線	4440 (4452)
------	-----------------	---------------------	---------------------	----	----------------

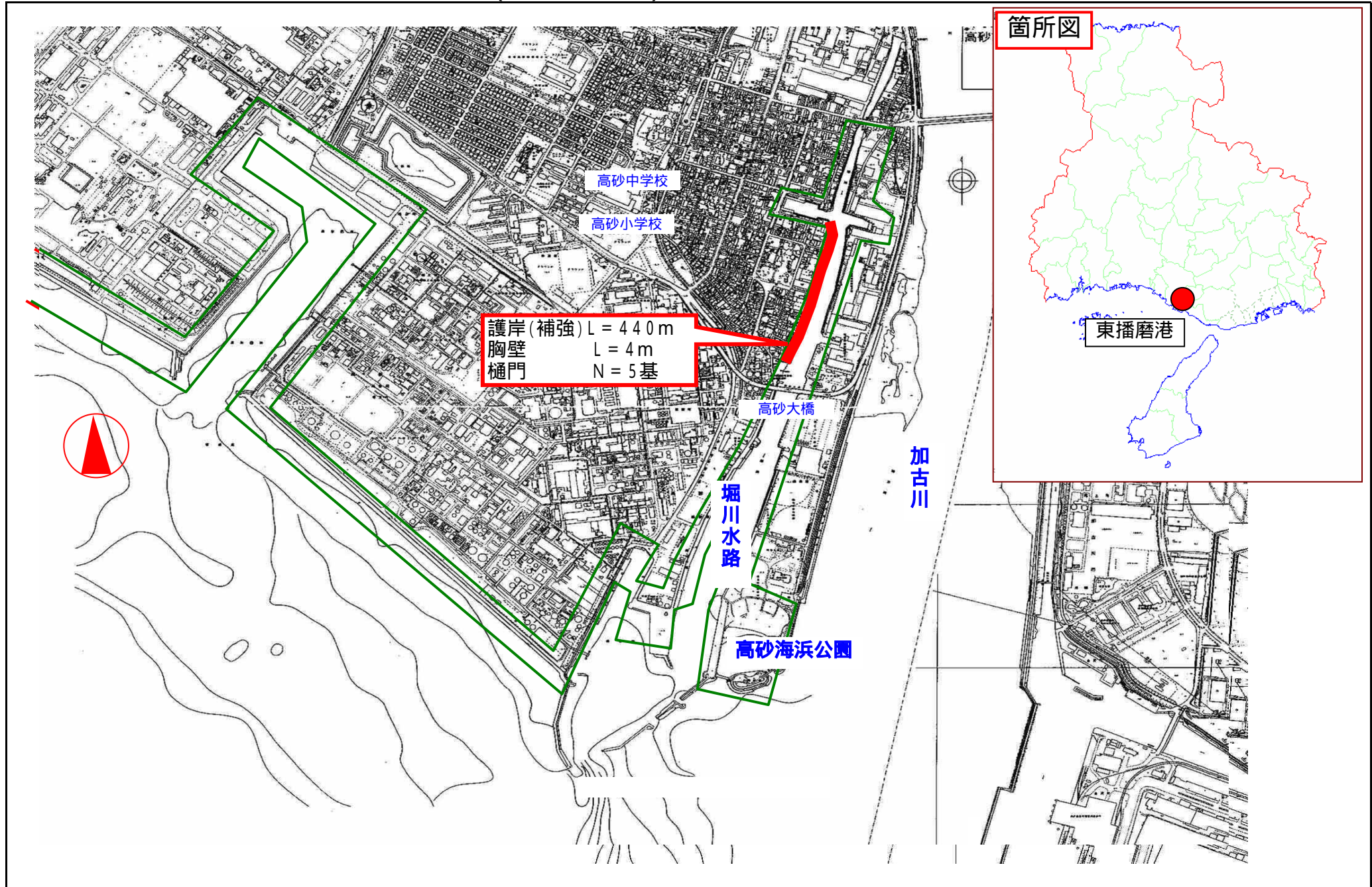
事業種目	海岸事業	事業名	事業区間	総事業費	4.2億円
		高潮対策事業	東播磨港海岸 高砂地区	内用地補償費	-

所在地	事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
高砂市高砂町	H 2 0	H 2 0	H 2 4

事業の目的	事業内容
<p>東播磨港海岸は、瀬戸内海播磨沿岸東部に位置し、背後には製造業を中心とした工場、人家が立地している。</p> <p>本事業を実施する高砂地区の護岸は、老朽化による鋼矢板の腐食が進んでおり、これに伴い背後地の一部には、腐食孔からの吸い出しによる沈下・陥没が生じている。</p> <p>このため、高潮時には、浸水被害を防止するため、土嚢と水中ポンプにより応急対応を続けてきたが、平成16年の台風第16号においては、既往最高潮位に達するほど潮位が高かったため、鋼矢板の腐食孔や老朽化した逆流防止施設から大量の海水が侵入し、背後地の家屋が浸水被害を受けたところである。</p> <p>老朽化した矢板護岸や逆流防止施設を改築することにより、高潮発生時の堤内地への浸水を防止する。</p>	<p>護岸（補強） L = 440 m</p> <p>胸壁 L = 4 m</p> <p>樋門 N = 5基</p> <p>[負担割合 国1/2 県1/2]</p>

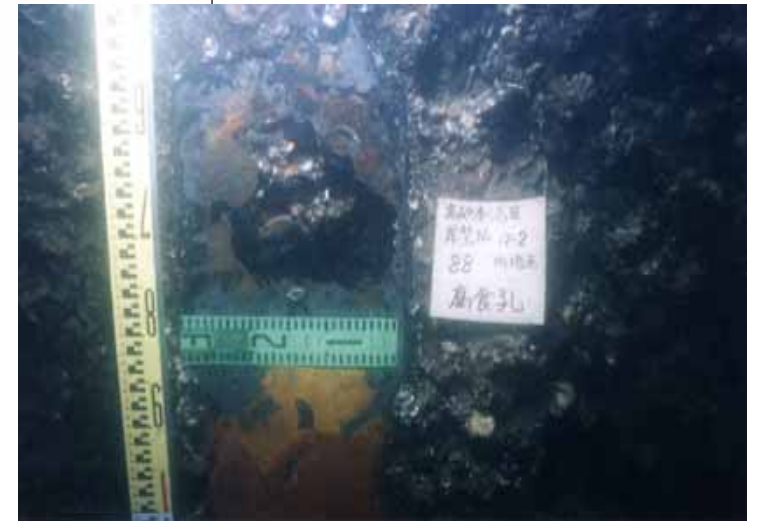
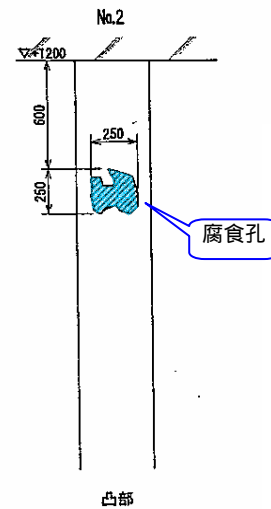
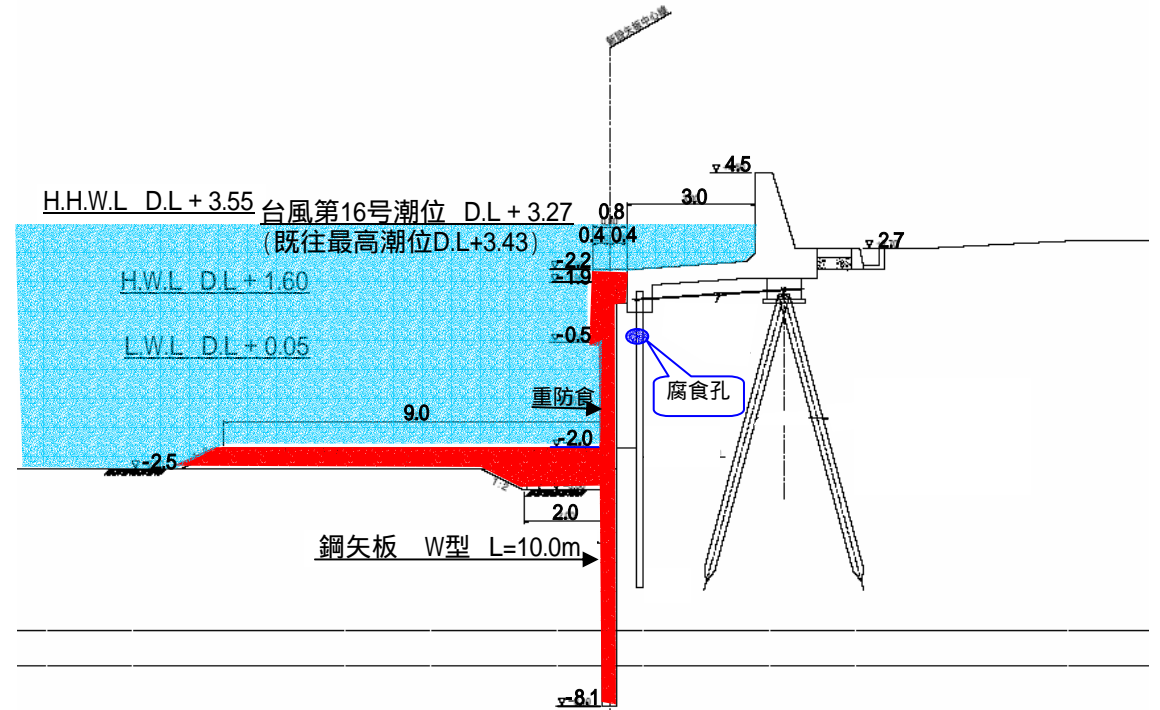
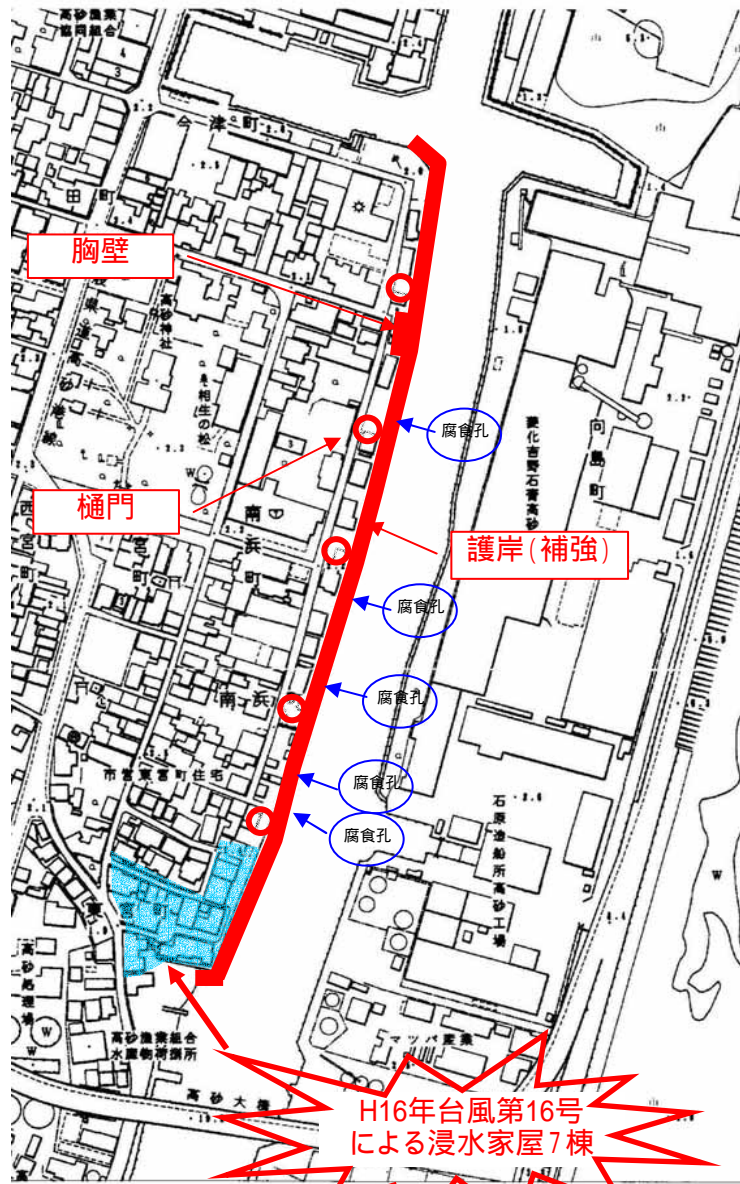
評価視点	評価結果の説明
(1)必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高砂地区の海岸保全施設は、昭和44年に建設され約40年が経過しており、調査による鋼矢板の腐食率は、最大で約50%に及んでいる。また、腐食孔も数箇所確認されており、高潮時には、海水の侵入により背後地に浸水被害をもたらしているため、その対策が喫緊の課題となっている。</li> <li>・これまで工事に対する漁業組合の理解が得られず協議が難航していたが、この度、合意が得られたため、早急に事業着手する必要がある。</li> <li>(平成16年台風による高潮浸水被害)</li> <li>平成16年台風第16号：浸水戸数7戸（床下浸水）</li> </ul>
(2)有効性 ・効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・費用便益比 B / C = 15.8</li> <li>・浸水被害の原因である護岸の老朽化対策として、鋼矢板を前面に新設することで、現況護岸の老朽化を抜本的に解決するものである。</li> <li>・当事業区間を重点的に補強することで、被災箇所の再度災害が解消され、住民の安全で安心な生活環境が確保できる。</li> </ul>
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「高砂みなとまちづくり構想」の取組の一環として、当該地区は、歴史的景観形成地区に指定されている。</li> <li>・今回の事業内容は、概ね喫水線付近から下に限られることから、景観に対する影響は最小限に抑えられる。</li> </ul>
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成16年台風による浸水被害以降2年が経過しているため、早急に整備を行う必要がある。</li> </ul>

# 東播磨港海岸(高砂地区) 高潮対策事業 計画平面図



# 東播磨海岸(高砂地区) 高潮対策事業 平面図 標準断面図

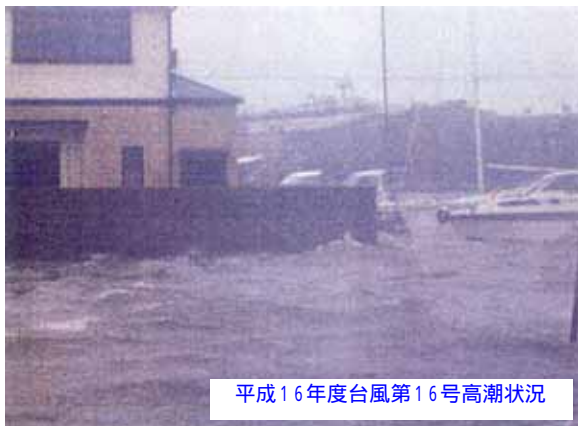
海岸—3



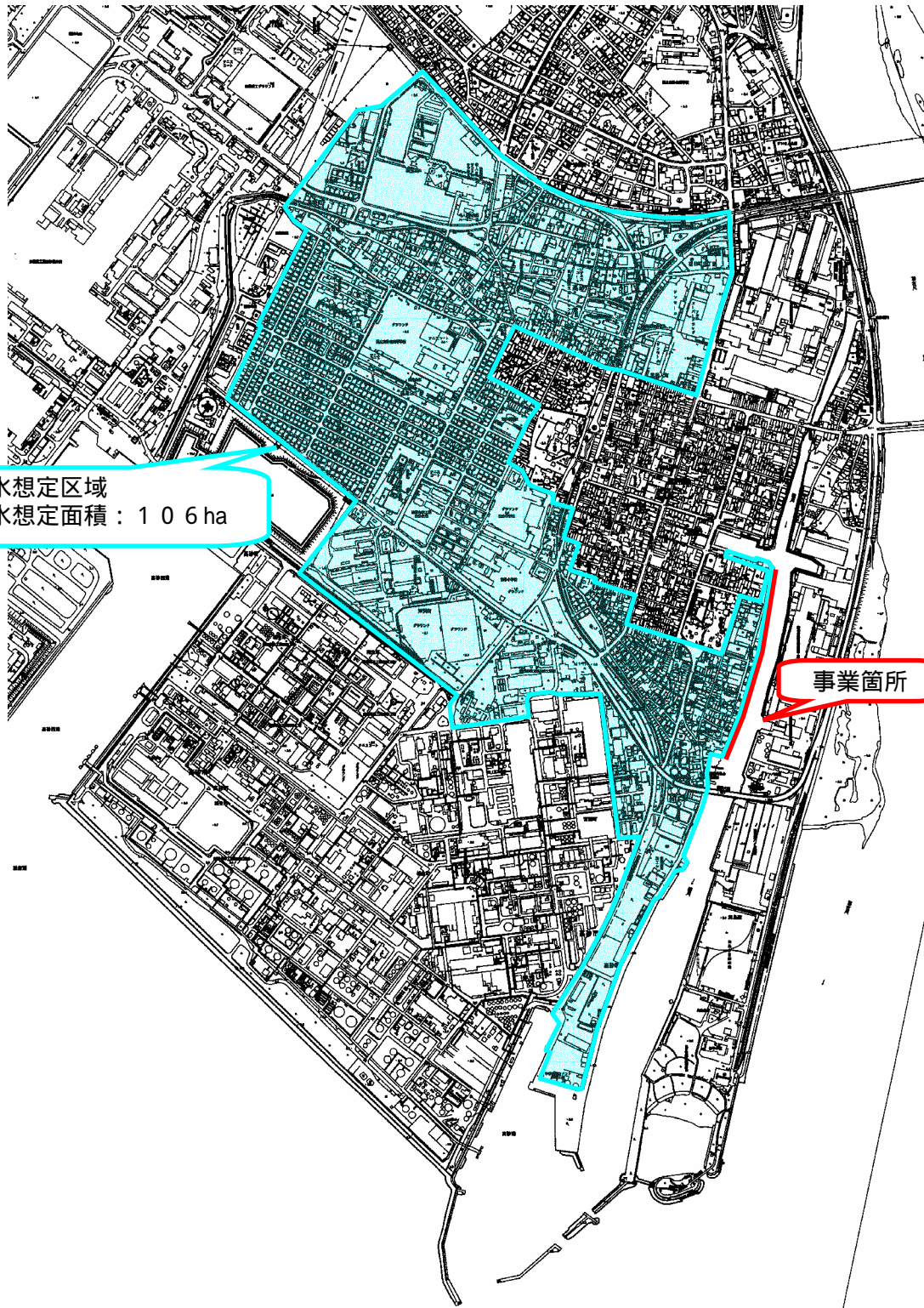
## 航空写真



## 浸水状況写真







# 浸水想定区域



浸水想定区域  
浸水想定面積：106ha

事業箇所

## 工程表

H19	H20	H21	H22	H23	H24
設計					
護岸(補強)					
樋門					
胸壁					

## 費用便益比 ( B / C ) について

### 1 便益 ( B ) の項目

主な便益 ( B )	算出方法
浸水防護便益	浸水が予測される地域 ( 想定浸水地域 ) で防護される資産の総和をもって便益とする。 資産額 = ( 家屋、家財、事業所資産 ) + ( 農漁家資産 ) + ( 公共土木施設、公益事業等資産額 )

### 2 費用便益比 ( B / C ) について

便益 ( B )		費用 ( C )			B / C
便益額 ( 百万円 )		総費用 ( 百万円 )	事業費 ( 百万円 )	維持管理費 ( 百万円 )	
浸水防護便益	6,170	389	354	35	15.8